



# 福井県社会福祉協議会 アクションレポート

令和4年11月28日 No.8

社会福祉法人 福井県社会福祉協議会 総務企画課  
〒910-8516 福井市光陽2丁目3-22  
TEL 0776-24-2339 / FAX 0776-24-8941 / E-mail somu@f-shakyo.or.jp

このアクションレポートは、本会の主な事業等の進捗を定期的にお知らせするために、役員および関係機関向けに発行させていただくものです。

## Contents

- ✓ 学生の視点で福祉の魅力を発信「福幸チャレンジ2022」
- ✓ 第69回福井県社会福祉大会を開催！
- ✓ 保育のお仕事職場説明・面談会の開催
- ✓ ランティイが「ボランティア月間（9月）」をPR！
- ✓ 福井DWA T 初の集合型研修で一体感強める
- ✓ タイ人技能実習生（第2期生）の受入れ
- ✓ 「高齢者・障がい者虐待防止研修」を開催
- ✓ ふくい健康長寿祭を3年ぶりに開催しました

## 学生の視点で福祉の魅力を発信「福幸チャレンジ2022」

### 基本目標4

新たな課題に取り組む  
組織・ネットワークづくり

### 関連するSDGsゴール



福祉現場における慢性的な労働力不足にコロナ感染症の拡大が拍車をかけていますが、一方で、社会貢献につながる仕事を希望する若者は多いという調査結果もあります。（※マイナビ2023年卒大学生就職意識調査）

本会は今年度、初の試みとして、福井県立大学と連携して福祉業界のイメージアップを目指す新たな取り組みを始めました。参加する学生は、看護福祉学部社会福祉学科の坂口昌宏准教授のゼミ2年生9人です。

10月11日には、福井県立大学永平寺キャンパスで、学生たちが、コロナ禍と闘ってきた福祉関係者らの話を聞き、福祉の魅力を発信する企画の立案と取材への意欲を高めました。

コロナ禍でも人とのつながりを止めないために行ってきた「チャレンジ」

を報告したのは、大野市の障害者支援施設「希望園」の土肥知博氏、県ろうあ協会の濱田かおり氏、あわら市の民生委員児童委員 岩本悦信氏、南越前町社会福祉協議会の細川泰司氏です。

学生たちは、4グループに分かれ、県内の各福祉現場に出向き、施設や活動の見学、インタビューなどで詳しく取材し、発信していきます。



県立大ゼミの様子

## 第 69 回福井県社会福祉大会を開催！

10月22日（土）、福井県生活学習館（ユウ・アイふくい）にて、第69回福井県社会福祉大会を開催しました。今年の大会は3年ぶりに、被表彰者、一般参加者等約220人が参加しての開催となりました。

まず、社会福祉の様々な分野やボランティア活動で長年活躍され、その発展や向上に寄与された272人と12団体の方々に、その功労を称える表彰が行われました。

その後に行われた記念講演では、タレントでエッセイストの小島慶子氏から、発達障害をテーマにご講演いただきました。

講演では、発達障害のあり方は様々で一人ひとり違うことへの理解を呼びかけられました。社会にはさまざまな課題があり、障がいがある一人ひとりの大切な「個性」といえるような優しい社会になるためには、周りの人の声掛けや環境づくり、公的制度の充実の必要性などをご自身の経験や気持ちを交えてお話いただきました。



表彰式の様子



講演された小島慶子氏

### 基本目標 1

社会的孤立を生まない  
地域づくり

### 基本目標 4

新たな課題に取り組む  
組織・ネットワークづくり

### 5つのチャレンジ④

企業や社会福祉法人とすすめる  
障がい者の社会参加促進

### 関連する SDGs ゴール



## 保育のお仕事職場説明・面談会の開催

福井県保育人材センターでは、保育所等の求人担当者と直接面談し、施設の魅力や採用の情報等についての話を聞くことができる「保育のお仕事職場説明・面談会」を、10月16日（日）、福井県自治会館にて開催しました。

また、当日は、潜在保育士や高校生を対象とした交流会も開催し、保育の現場への復職を考えている方への就労支援や、これからの保育人材として期待される若年層への理解促進を図りました。

センターでは、保育人材の確保に向け、潜在保育士の発掘・確保、若年層への保育の仕事に対する理解促進に向け、今後も各種事業に取り組んでまいります。

〔参加事業所数〕 25 事業所

〔参加者数〕

- ① 職場説明・面談会 37 名
- ② 先輩保育者との交流会 22 名



職場説明・面談会



先輩保育者との交流会

### 基本目標 2

地域と福祉を支える  
担い手づくり

### 関連する SDGs ゴール



## ランティアーが「ボランティア月間（9月）」をPR！

基本目標 1  
社会的孤立を生まない  
地域づくり

関連する SDGs ゴール



県社協では、毎年9月を「ボランティア月間」に位置づけて、県民へのボランティア活動の周知と参加促進を図るさまざまな普及・啓発活動を実施しています。

今年度は、福井県ボランティアセンターのマスコットキャラクター「ランティアー」が県内各地を訪れ、コロナ禍の中で再開・継続しているボランティア活動と一緒に参加して、その様子を Facebook で発信しました。

訪問日	訪問場所	参加したボランティア活動
9/3（土）	鷹巣海水浴場	海岸クリーンアップボランティア活動
9/4（日）	南越前町	災害ボランティア活動
9/10（土）	越前市文化センター	武生国際音楽祭 2022 運営ボランティア
9/18（日）	福井県産業会館（カレー博会場）	来場者へのエコ活動の呼びかけ
9/23（金）	FBC 本社（FBC しあわせ HAPPY 博会場）	ひとり親家庭に配る食料品・オムツ・ベビー用品募集の呼びかけ
9/24（土）	高浜町「保健福祉センター」	ボランティア交流会
9/27（火）	大野市「結とぴあ」	音訳ボランティア活動



海岸クリーンアップ（福井市）



ボランティア交流会（高浜町）



音訳ボランティア（大野市）



ひとり親家庭に配る食料品・オムツ・ベビー用品募集の呼びかけ（福井市）

## 福井DWA T 初の集合型研修で一体感強める

創設2年目の福井DWA T（福井県災害派遣福祉チーム）では、新たなチーム員の登録に向けたビギナー研修や、チーム員登録2年目の方を対象としたミドル研修のほか、県総合防災訓練にも参加し、チーム員の育成を着実に進めています。

7月に実施した今年度第1回目のビギナー研修は、昨年度と同様、オンライン開催とし、13名の方が新たにDWA Tチーム員として登録いただきました。

一方、9月に実施したミドル研修は、集合型で開催し、37名の参加となりました。チーム員同士でテーブルを囲み、活動時に連携が必要な医療や保健チームとの連携方法などを目線を合わせながら議論をし、チームとしての一体感を強めました。また、研修当日は、災害発生を想定した、メールでの出勤可否の確認と参集訓練も実施し、即応体制の強化に努めました。

10月には県総合防災訓練（於：勝山市）にも参加し、チーム員8名と事務局が2人1組となって避難所となった市体育館内を回り、住民にDWA Tの役割の説明を行いながら、困りごとを聴き取るなどの実地訓練に臨みました。



DWA Tミドル研修



県総合防災訓練（DWA T訓練）の様子

### 基本目標 1

社会的孤立を生まない  
地域づくり

### 基本目標 3

制度の狭間を生まない  
包括的支援体制づくり

### 5つのチャレンジ⑤

災害時福祉救援体制の  
強化

### 関連する SDGs ゴール



## タイ人技能実習生（第2期生）の受入れ

基本目標 2  
地域と福祉を支える  
担い手づくり

5つのチャレンジ③  
福祉・介護で働く在日  
外国人への支援

関連する SDGs ゴール



タイ人技能実習生（第2期生）8名が9月16日に入国し、約1か月の入国後講習を経て、10月24日から県内の介護事業所5か所で実習をスタートさせました。これから3年間、それぞれの介護現場で福井での介護技術を学びます。

なお、今回の実習生のうち6名は、タイに県内の介護福祉士を派遣して教育を行った、本県独自の育成システムによる初めての実習生です。現在もタイの高校と連携した実習候補者の教育を進めており、実習生の確保、安定した受入れ体制の強化を図っていきます。



入国後講習の様子（移動の介護、公共交通機関説明）

## 利用者の権利擁護を改めて考える 「高齢者・障がい者虐待防止研修」を開催

基本目標 2  
地域と福祉を支える  
担い手づくり

関連する SDGs ゴール



施設利用者への権利擁護意識を醸成し、福祉職員の資質向上を目的に、NPO 法人ホッとスペース中原代表の佐々木炎氏を講師に「高齢者・障がい者虐待防止研修」を開催しました。

当日は定員を上回る128名の方が受講し、施設・事業所の虐待防止に対する意識の高さがうかがえました。

利用者への適切なアセスメントと個別支援を行うこと、利用者のストレングス（強み・できること）探しを行い大切にすること、利用者へ敬意を払う「ぶれない」接遇を徹底することなど、受講者は虐待を起ささないポイントを学ぶことができました。

今後により多くの施設・事業所のニーズに応えることのできる研修の実施に努めていきます。

### 支援の基本原則

- ①本人の意思の尊重
  - ②本人の意思決定能力への配慮
  - ③チームによる早期からの継続支援
- 意思決定能力は本人の個別能力だけではなく、支援者の支援力によって変化する

（認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン：厚生労働省平成30年6月より）

### ポジティブケア対ネガティブケア



山口精保©

## ふくい健康長寿祭を3年ぶりに開催しました

9月17日（土）、越前市を会場に、「ふくい健康長寿祭 2022『スポーツ・文化交流大会』」を3年ぶりに開催しました。

コロナ禍もあり、生きがい・健康づくりイベントの開催は見送りましたが、晴天に恵まれ、約1,500名のシニアが大会に参加し、スポーツ・文化交流大会を通して交流を深めました。



開会式

大会開会式はアイシンスポーツアリーナで開催。県社協 小藤会長による開会宣言で開式し、越前市いきいきシニアクラブ連合会の山本会長が「元気高齢者を宣言」しました。



元気高齢者宣言

その後、各競技会場で15の競技が行われ、日頃はなかなか対戦できない他の市町の選手との熱線が繰り広げられました。

参加したシニア、主催者ともに対面で集い、つながりを深めることの楽しさを実感した1日でした。



ゲートボール



健康麻雀

### 基本目標 1

社会的孤立を生まない  
地域づくり

### 関連する SDGs ゴール



(県社協からのご案内)

## 「第11回ふくいチャリティー・アート展 ～未来を支える子どもたちのために～」

<日 時> 12月3日(土)～5日(月)9時30分～17時  
(最終日は15時30分まで)

<会 場> 福井市にぎわい交流施設「ハピリンホール」

本県にゆかりのある名士・作家の方から協賛いただいた作品ならびに本県出身のプロスポーツ選手から協賛いただいたサイン入りのユニフォーム等を展示。入札により頒布します。

収益は、本会の「子ども未来支援事業」の財源として活用させていただきます。多くの方にご来場いただきますようご案内申し上げます。

